

明治の開国以来、日本人の目標は「欧米に追いつけ、追い越せ」であった。確かに近代的合理主義や西洋の科学技術は、モノを豊かにし便利で快適な暮らしをもたらした。しかし、大量生産・大量消費の経済構造は、大量廃棄による環境破壊を生み、利益至上主義の中、際限のない競争化が人の心を荒廃させていった。

「GNP（国民総生産）よりもGNH（国民総幸福）が重要だ」と語ったのはア

きよよりの

発言

波多野 毅

寺子屋T A O塾代表

ジアの小国ブータンの国王だが、日本も今一度立ち止まって考えてみてはどうだろうか。

南小国町に、四千年前のシュメール古拙文字のペトログラフ（岩刻文字）が刻

弁当を作り、そこへ案内する機会があった。

二十年前に東京で講演を聴いたあこがれのひと、生まれ故郷で再会できることになるとは感慨無量だった。私が世界一の阿蘇の力

懐かしい未来

まれた巨石が点在する押戸

石山がある。古代人の祈り

の場といわれている。昨年、

統合医療の世界的権威でア

リゾナ大医学部教授のアン

ドルー・ワイル博士のため

に、マクロビオティックの

ルデラや押戸石山の太陽信

仰による石の配列などを解

説していると、博士が「こ

こはJOMONの世界だ

ね」と叫んだ。なんと縄文

という言葉を「存じだった

のだ。

る未来」が見えてくる。

日本を人体だとみると、

九州は足。阿蘇は万病に効

くツボ「足の三里」に位置

する。新しい時代の波をこ

れからも足元から発信して

いきたい。